

平成25年第2回定例会 議会報告

(平成25年 6月7日～6月27日)

かみくら

秦野市議会議員

神倉ひろあき



●6月7日から始まった、第2回定例会は、議案審議、一般質問、常任委員会、議会運営委員会、議会活性化特別委員会と続き6月27日、委員長報告をもって終了しました。

私の一般質問、を、ご報告いたします。

★一般質問 「秦野市の成長戦略」について…ポテンシャルを生かし、持続的な発展と成長を目指せ！！

1.新東名インターチェンジ・サービスエリア周辺の活性化と企業誘致。 2.観光資源の活用

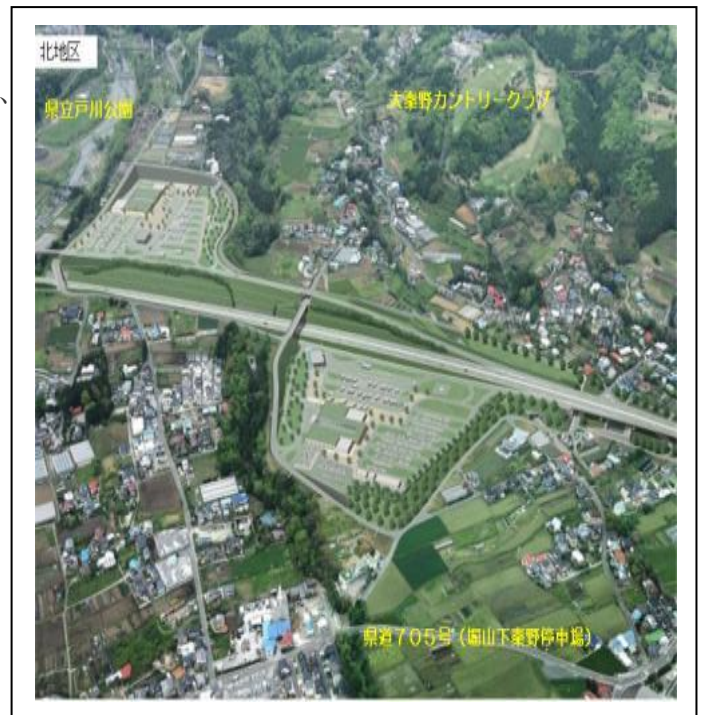
質問 国の指定を受けた「さがみロボット産業特区」は、さがみ縦貫道路沿線地域等9市2町を対象に生活支援ロボットの実用化を促進し関連企業の集積を進めるもので関係する市や町にとって今後の経済発展に多大な貢献をもたらす。近隣の伊勢原市、厚木市では、これによって生まれる大きな効果を活用し産業・経済の活性化と観光振興を積極的に図っている。特区の対象外である本市が、今後、持続的に成長を続けていくためには、国・県の政策や地域環境に応じ、広範囲の人材を活用し、地域イノベーション政策の立案、施策の実施に向け、確かな戦略を早急に構築しなければならない。

そこで、**本市の成長戦略**であるが、①. **第1に、新東名、厚木・秦野道路のインターチェンジ**を中心とした地域の活性化と企業誘致に関して積極的な活動を展開することである。インターチェンジ及びサービスエリアは、市が声を出さなくても出来る。**そこに何を作るのか、関連地域をどう開発し発展させるのか、どんな企業や研究施設などを、いかに誘致するのかが重要である。**現状はどうなっているのか。

②. **第2は、観光資源の発掘と活用**である。丹沢を中心に、戸川公園、震生湖、弘法山等かなり観光資源がある。これらの有機的関連や行事の継続性を強化し多くの人が参加したくなる**骨太な観光振興策を策定**すべきである。

回答 ①. 本市の都市、産業、環境等の分野における施策・事業と連携し融合させ市の発展に結びつけるため全庁的に考えている。周辺の土地利用は、その核になるため、**市街化調整区域であるが、線引き見直しや都市的土地利用等を庁内組織で検討**している。サービスエリアには、**スマートインターチェンジ**の誘致。工業系用途地域では、未利用地への民間投資を喚起する。また、農産物の加工直売所を設置するなど農林業、観光が活力産業になるよう**民間活力を誘導**する。

②.**「秦野市観光振興基本計画」を策定**したが、本市には、全国的に誘致力の高い観光資源や施設が無いいため、**丹沢・弘法山・湧水・鶴巻温泉等をネットワーク化**し観光周遊や観光滞在を促進したい。高速道路整備に伴い、**国定公園である丹沢大山をアピール**するため関係団体と連携し、丹沢の自然を再生する活動、**山小屋の環境整備、地域資源を活用したハイキングコースの設定等**に取り組む。



質問 平成21年第2回定例会以来、3度に亘り新東名インターチェンジ・サービスエリア周辺の土地活用について質してきたが、全庁的な2つの検討委員会での検討。市街化調整区域の課題。スマートインターチェンジの設置。と、**4年経っても回答は同じだ。**①2つの**検討委員会の成果**。②**土地利用**についての方向性。③**専門家等々の意見**は、どうなっているのか。

回答 ①周辺土地利用構想検討委員会、幹事会、調整部会の3層構造で検討している。【成果が見えない状況】

②現在、インターチェンジ周辺の**土地利用構想の策定**をしている。③回答なし。

質問 新東名の開通まで、7年半である。以前から言っているように、**インターチェンジ・サービスエリア周辺は、調整区域なので土地の用途変更をしないと、次のステップに進まない**。①**用途変更にどの位の時間を要すると認識しているのか**②**県の線引き見直しは、平成28年度というが、市としてどう臨むのか**。また、新東名開通前までに間に合うのか。

回答 ①回答なし。線引きが平成28年度なので、検討が進んでいる。来年までに構想をまとめたい。

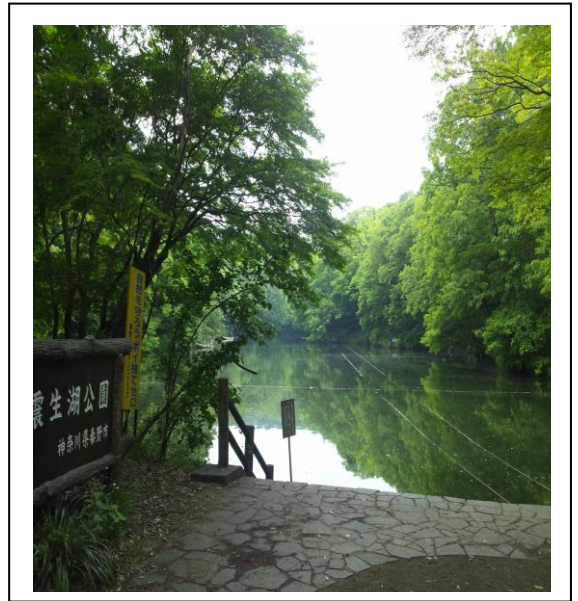
②周辺土地利用に関して解決する事とスマートインターチェンジを連結する事の許可を得る事である。回答なし。

質問 平成28年度の用途変更を逃すと、平成35年度となり新東名が開通しても周辺地域は現状のままである。「**新東名周辺活性化構想**」を早急に策定し、逆算した形でスケジュールを立てないと間に合わない。①**その際、コンサルタントに調査依頼しているのか**。②**周辺の土地利用する場所は、どの辺りをどの位の面積で考えているのか**。

回答 ①**コンサルタントに発注する段階でない**。②サービスエリア周辺の、おおむね1,000㎡の区域である。

意見 インターチェンジ・サービスエリア周辺の土地活用について、農業テーマパーク、アウトレット等商業施設の誘致や物流施設の設置等は勿論のこと、様々な場所にどんなものが活かせるかなどは、専門的なまちづくりに長けた**コンサルタント等に客観的な判断を仰ぎ、自ら地域の特色を認識し地域資源を活用する事が重要ではないか**。

意見 **相模原市は、さがみ縦貫道の相模原インターチェンジ周辺新拠点まちづくり基本構想を立てている**。地区を産業、農地・住居、公共・公益などのゾーンに区分し、**地区ごとにまちづくりの方向性を出し全体で相乗効果を生む構想をしっかりと策定している**。既に、**都市間競争が始まっており、これに勝ち抜くための努力をしている現実を認識して頂きたい！！**



意見・質問 **厚木市では、都市間競争を勝ち抜く成長戦略として、新たに企業誘致の産業用地として6つの地区を土地検討ゾーンとして、都市マスタープランに位置づけている**。その中に、**国道246バイパス厚木北インターチェンジ周辺地区と新東名厚木南インターチェンジ周辺地区が、検討ゾーンとして定められ、調整区域を見直し、事業化に向けて舵を切っている**。これに付随して、**厚木産業マスタープランを策定し、企業誘致戦略、産業振興計画を柱に地域産業の活性化と企業誘致に積極的に取り組んでいる**。加えて、**昨年11月に厚木市企業立地フォーラムを東京で開催し、市長自ら、シティーセールスを行い企業誘致する等、発信力、行動力を伴っている**。その結果、**昨年度の企業誘致・立地促進条例による適用件数4件、大型物流施設の誘致数6件と結果が出ている**。市長は、こうした現実をどう見ているのか、**市長の描く成長戦略、都市間競争に勝つ取組みとはどういうものか伺う**。

・・・**回答は核心を得ず！！【市長として、成長戦略・将来ビジョンが無く、情けない！！】**

要望 **秦野市は成長戦略が曖昧で、新東名周辺地区の構想も未だない**。総合計画に連動し、本市のポテンシャルを生かした**骨太の成長戦略を立てることだ**。人・物・金を呼び込み、産業・観光振興・地域の活性化を図り、雇用を創出し、人口・税収を増大させる。これが「みどり豊かな暮らしよい街」につながるのである。

10年、20年先を見据えた成長戦略、将来ビジョンをみんなで創造・共有して、「クールジャパンHADANO！！」に挑戦しましょう！！ こうした気概で取り組んで頂きたい。

●一般質問の詳細は、「**秦野市議会HPにて、録画配信しています**。」是非ご覧ください。

●秦野市渋沢2-5-13 TEL&FAX 0463-88-3655 携帯:090-3533-8034 Eメール: kamikura5@yahoo.co.jp

神倉ひろあき 平成25年度 第2回定例会議会報告